

医療用電子血圧計 AVE-1500 を用いた 血管指標 AVI、API についての検討～ 冠動脈疾患患者を中心に～

田澤 泰, 森 信芳, 三浦 平寛, 鈴木 文歌,
高橋 珠緒, 坂田 佳子, 伊藤 修, 上月 正博

東北大学大学院医学系研究科内部障害学分野

【はじめに】動脈硬化は心血管イベントの危険因子であり、早期発見が疾患の発症予防に重要である。今回、新たな動脈硬化指標として Arterial Velocity pulse Index(AVI)、Arterial Pressure volume Index(API) について医療用電子血圧計 AVE-1500(PASESA(R)、志成データム社)を用いて検討した。

【対象】東北大学内部障害リハビリテーション科を心臓リハビリ目的で外来受診した患者および入院した患者で医療用電子血圧計 AVE-1500 を用いて AVI、API を測定した患者。

【方法】医療用電子血圧計 AVE-1500 に記録された AVI、API と血漿 BNP、eGFR、Cr 補正尿中アルブミン、PeakVO₂ との相関関係をみた。また患者背景因子(冠動脈疾患)の有無で比較した。

【結果】60 例を分析した。平均年齢は 61.85 歳であった。AVI は過去に冠動脈造影で労作性狭心症もしくは急性冠症候群と診断された群で、非冠動脈疾患群に比して有意に高値であった。また AVI は PeakVO₂ と有意な相関関係がみられた。冠動脈造影で判明した狭窄病変数と AVI との相関は明らかではなかった。血漿 BNP、eGFR、Cr 補正尿中アルブミンと AVI、API との相関は明らかではなかった。

【結論】AVI は冠動脈疾患および運動耐容能と関連している可能性が示唆された。